

宮島・管弦祭櫓伝馬関連現地調査報告

日 時：平成20年11月14日（金） 8：30～19：30
場 所：宮島観光協会、厳島神社社務所、広島市役所、阿賀漁協
議 題：地域力発掘モデル事業「櫓伝馬」関係現地調査
調査事項：櫓伝馬行事の起源及び関連歴史等について聞き取り調査
調査参加者：石倉、榎本、世登（世登一宮島口から阿賀まで同行）

宮島観光協会・浜田敏博専務理事

管弦祭の起源は平清盛公が宮島に宮を作り、都を懐かしんで船上で雅楽を楽しんだのが起源らしい。管弦祭が現在の形になったのは、元禄14年（1701年）管弦祭当日大嵐となり管弦船が遭難しかかった際江波と阿賀の方々が救助したことに始まるとのこと。

厳島神社社務所・河野氏

管弦祭について関連書籍（厳島信仰辞典・野坂元良編・戎光祥出版）を参考に説明いただいた。
(INBN4-900901-24-5C3514)

広島市市民局スポーツ部文化財課・片山和哉主幹

江波こぎ伝馬保存会について説明を受けた。

江波こぎ伝馬保存会副会長沖山氏（082-291-5809）を紹介されたが、相手の時間的制約もあり、後日連絡を取ることにした。

阿賀漁協・松谷愿組合長

管弦祭には前日を含め4日約50人が参加する。伝馬船2隻（長さ14～15m位）は10年ほど前、江田島で建造。櫓漕ぎ手片舷3丁計6丁の櫓で漕ぎ、漕ぎ手は交代を含め12人、サイ振り（4～9才）2人ずつ乗船、楫は後ろ櫓が取る。（江波の楫は大楫）

ご神体の御座船積み卸しは阿賀地区のみ関わるとのこと。

伝馬船及び祭り関係の写真を参考に説明いただいた。

旅費	フェリー車（往復）	1600 x 2	= 3200円
	〃 人（往復）	690	= 690円
	高速料金（河内から廿日市）		1550円
	宮島口駐車料		1000円
	宮島フェリー人（往復）	170 x 2 x 3人	= 1020円
	高速料金（廿日市から広島）		750円
	広島呉道路	150 + 150 + 550	= 850円
	ガソリン代205km @ 117 x 12.7		= 1487円
	現地調査費合計		10547円